

葛飾区における 3 R 進捗についての情報提供について

リサイクル清掃課

1 情報提供

- (1) 「繊維 to 繊維」進捗について
- (2) 粗大ごみの「製品プラ」資源化の実施について
- (3) 粗大ごみの「布団類」資源化の検討について

2 情報提供内容詳細

(1) 「繊維 to 繊維」進捗について

6 月から 9 月までの集団回収新規増加分 12,400kg (12.4t)

リユース 47%、マテリアルリサイクル 50%、「繊維 to 繊維」0.2%

残渣として焼却 2.4%

(2) 粗大ごみの「製品プラ」資源化の実施について

令和 5 年 11 月より、葛飾区で回収された粗大ごみについて、衣装ケースやイス、ごみ箱、子供用遊具（すべり台・ベビーサークル等）プラスチック製品の資源化（マテリアルリサイクル）を実施。

※ 23 区での大規模な実施は初めて。

※ 粗大ごみは令和 4 年度実績で 45 万点、ケース類 3 千点、ごみ箱 6 千点、子供遊具 5 千点、すべり台・ブランコ 3 百点など

※粗大ごみで出されたプラスチック製品は、中央防波堤にある処理場で焼却、もしくは粉砕され埋め立てられている。

(3) 粗大ごみの「布団類」資源化の検討について

令和6年度より、粗大ごみで回収された布団類（羽毛・羊毛・ポリエステル含む）の資源化の実施を検討。

※羽毛以外の水平リサイクル本格実施は23区で初めて。

※葛飾区で回収される布団類は5万から6万枚（23区全体では約98万枚と粗大ごみの中で一番多い品目）

引き続き、費用対効果を十分に検討しつつスピード感を持ち、23区の先駆けとなるべく、ごみ減量と資源化の推進に注力してまいります。

葛飾区は「繊維to繊維」を推進し、古布（廃棄衣類）の資源回収に力を入れます



約2000～3000トンの繊維が
まだ燃やすごみの中に！？



集団回収の強化で回収量
と資源化率向上！



資源回収



使用済衣類
(廃棄衣類)



資源化（リユース・リサイクル・
ケミカルリサイクル）

資源回収量（200トン）

リユース（中古衣料）

リサイクル（ウエス・フェルト）

資源化できない20～30%
は焼却処分に！？



繊維to繊維で将来的に
は、燃やすごみ量の
ゼロを目指す！



※区民の皆様身近な環境問題として認識いただき、行動を促してまいります

葛飾区は「繊維to繊維」を推進し、古布(衣類)の廃棄量削減と資源化率向上を目指します

#SUSTAINABLEFASHION

日本で売られている衣服の約98%が海外からの輸入です。



日本のファッション産業によるCO₂排出量は、原材料調達および製造段階で90%以上を占めており、ファッション産業を持続可能にする為には海外での環境負荷の実態把握とその削減が重要です。



#SUSTAINABLEFASHION

国内に供給される衣服の製造で必要な水の量は年間で約83億m³、うち約9割は綿の栽培によるものです。



もし全ての綿をオーガニックコットンにできれば年間約67億m³の水消費が削減されます。これは東京都で年間利用される水の4倍以上の量です。

※ここではオーガニックコットンによる水消費削減率90%として計算しています。
出典：Soil Association "Organic cotton and water report"



#SUSTAINABLEFASHION

家庭から手放される衣服のうち、リユース・リサイクルされる割合は約34% 残りのごみとして処分されます。



もし残りの全ての衣服が回収され、リサイクルを経て原材料に再供給された場合、最大で年間約2,500万トンのCO₂排出量が削減できます。これは東京都における年間のCO₂排出量の約4割に相当します。



#SUSTAINABLEFASHION

家庭から手放される衣服の量は年間約75万トン、うち約50万トンがごみとして出されています。



ごみに出された衣服が再資源化される割合はたった5%ほど。服を資源として再活用することが求められています。



#SUSTAINABLEFASHION

平均すると1日あたり大型トラック約130台分の服が焼却・埋立処分されています。



日本の家庭から焼却・埋め立てされる服は、年間約48万トン。廃棄量の削減が課題です。



葛飾区では、年間約200トンの古布を資源として回収しています。

しかし、回収された古布の20～30%は廃棄されています。また、年間2千～3千トンもの衣類が燃やすごみとして出され、焼却されています。